

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年5月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	5月度の醤油出荷量は、前年同月に比べて大幅に減少した。消費の低迷が依然として続いているようであり、早期回復を期待したい。
	パン・菓子製造業	ゴールデンウィークは昨年に比べ売上は半分であった。
繊維・同製品	その他の織物業	連休明けより動きがやや活発になるが、前年を越えることが出来なかった。今年に入り産地企業数社が廃業するなどますます厳しい状況になっている。
	織物業	相変わらず厳しい状況である。
	ニット生地製造業	工賃が上がる要素が無い。量が少ないからといっても工賃は変わらない。急激ではないが、少しずつ景気は悪化している。
	その他の織物業	5月度は、先月に引き続き全体的に低迷している。輸出産業が日本経済全体を底上げし、一般消費を改善させ、我々を取り巻く環境への波及改善を期待しながら、現状を乗り越えていかざるを得ないであろう。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	売上高の増加は、販売数量の増加によるもので、販売価格が不変であっても結果的に収益の好転に繋がった。その他として、能登半島地震の影響は見えて来ない状況である。
	製材業、木製品製造業	5月度は例年に比べて仕事量は減少した。資材価格においては、物によって下がっている物もあるが、合板関係は相変わらず高値で推移している。6月には価格に変動がありそうである。
窯業・土石製品	砕石製造業	5月度の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷22.1%減、合材用アスファルト向け17.5%減で全体の出荷量でも21.6%減といずれも大きく減少した。特に金沢地区への出荷量が大幅に減少し、全体的に影響を与えた。
	陶磁器・同関連製品製造業	九谷茶碗まつりは来場者数の減少が売上にも響いた。6月には名古屋での新作見本市や東京ドームでのイベントも予定されており、九谷焼のPRに繋がればと思っている。また九谷焼カタログの切替月でもあり、売上増の起爆剤として活用していきたい。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況は、前年同月比78.3%と大幅なマイナスとなった。地区状況を見ると、鶴来・白峰、七尾地区はプラスとなったものの、南加賀、金沢、羽咋・鹿島、能登地区はマイナスとなった。官公需、民需ではともに大幅なマイナスとなった。平成19年度も大変厳しく、今後が心配である。
	粘土かわら製造業	新築住宅着工数が減少しているが、売上は前年に比べ約10%増加している。これは能登半島地震による影響ではなく、本格的な葺替工事によるものである。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	全体的に絶好調であり、マイナス要因が全く見られない。
	非鉄金属・同合金圧延業	先月と同様に特に変化は認められなかった。
	鉄素形材製造業	鋳物用原材料高騰分の鋳物価格への転嫁交渉は、ユーザーの理解もあり、総じて5～8%前後の値上げで話し合いがまとまったところが多く見られる。景況を生産量で見ると、企業によって偏りがあるものの緩やかに伸びている。しかし、受注引き合いから見ると停滞感が窺える。
	鉄素形材製造業	前月と同様に著しい変化は生じていない。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年5月分)

一般機器	繊維機械製造業	鉄工関係の生産は引き続き好調である。4,5月に仕事量が少なかったところも6月は注文が多く、7月以降も高水準の受注を見込んでいるところも多い。
	プレス、工作機械	エンドユーザーが国外である受注が多くなってきた。その他として、銅やステンレスという原材料の高騰がまだに続いており、収益を圧迫している。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	新規受注から正式な発注を受け、生産までのタイムラグがあるため、売上はやや低迷している。
	機械金属、機械器具の製造	高水準で安定した操業を維持している。ステンレスや銅など素材価格が高騰したままだが、それらを販売価格に転嫁することが難しい状況であり、収益を圧迫している。
その他の製造業	漆器製造業	漆器の生産活動も徐々に回復しているが、設備の修繕や運転資金の確保などの対応はまだみだである。
	漆器製造業	連休明け以降は商品の動きが止まり、例年より早めに春物商戦が終了したような感じを受けた。5月中旬に開催された産地見本市では昨年対比の売上は確保したものの、来場バイヤー数は減少した。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	特に変化は見られない。
	農畜産物・水産物卸売業	5月は昨年同期とほぼ横ばいで推移した。能登半島地震の影響もやや少なくなってきているので、今後に期待している。
	一般機械器具卸売業	稼働日数が少ない5月にしては好調であった。ただ売上額が確保出来ても、不良債権の発生により利益や収益に大きく影響を与えており、今後の動向に注視しなければならない。
小売業	燃料小売業	卸価格が大幅に上昇している。6月も値上げが予想される。
	機械器具小売業	5月度は、液晶・PDPテレビの好調は持続したものの、白物家電品が全般に悪く、加えて連休と天候不順が響き、前年比95%と若干落ち込んだ。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	漸く気温も上昇し、初夏物商品が順調に推移したものの、母の日セールにおいての衣料品需要が減少気味であった。来年以降についての課題となった。全体的には前年同月比99.4%で推移した。
	鮮魚小売業	5月の入荷状況は全体的に順調であった。ただ全体的に売上は不調であった模様。
	他に分類されない その他の小売業	先月に引き続き、地震による風評被害で観光客が大きく減少している。
	百貨店・総合スーパー	5月の売上は、予算比85.4%、前年比90%と前年を大きく下回った。呉服関連の売上が、大幅に減少したことが影響しているものと考えられる。5月も前半はGWの影響で全体的に良かったが、中旬以降は落ち込んだ。月末に特招会を開催したものの、前年を上回ったのはファッション関連とサービス関連の2部門だけであった。
	米穀類小売業	毎年5月は端境期に入り、若干相場の上昇が見込まれていたが、価格や販売数量は低下し、前年比と比較にならない。価格競争に巻き込まれては将来が無くなる。これからは専門店の特性を活かした商売が必要となる。対面・対話の強みを発揮し、米の販売手法を見直し、工夫する事が必要である。
商店街	近江町市場	ゴールデンウィークの後半は、前年と同様に入出は減少した。
	尾張町商店街	正直いって冗談じゃない月になってきた。年度が新しくなってきたから、市場が止まってしまったかのようで、静かなって悠長なことを言ってもらえない。外回りの営業で下支えしているものの、売上はさすがに下がって来ている。
	片町商店街	ゴールデンウィークは晴天に恵まれ、県内外の来街者が多く、繁華街も賑わったが、平日の客足は鈍化した。
	竪町商店街	組合員の業況は全体的に悪化している。今後どうなるのか不安である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年5月分)

サービス業	旅館、ホテル	能登半島地震の影響により、金沢や加賀においても風評被害が大きく、昨年同月に比べて宿泊客が2~3割減少している。
	旅館、ホテル	能登半島地震による風評被害の影響が出ており、需要を確保するため、利用料金を値下げする傾向が一部で見られる。
	自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比4.3%増、前月比7.6%増となった。新規検査状況は、前年同月比5.8%減、前月比3.1%減となった。
	旅館、ホテル	能登半島地震の風評的影響が大きく、宿泊人員は15%減少となった。今日も予約の発生、問い合わせが無い状況が続いている。また日本経済は回復傾向にあると言われているものの、観光業界に実感は無い。
建設業	一般土木建築工事業	公共工事の発注量の激減と入札制度の改定に伴い、公共工事の受注は極めて厳しい環境となっている。発注量の減少は、同業者間の競争激化を招き、ダンピングによる落札金額が低下するなど、業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。民間工事においても発注請負額の廉価傾向が続ぎ、景況は悪化していると感じられる。
	板金・金物工事業	営業力のある企業は、確実に仕事量を確保している傾向にある。
	室内装飾工事業	組合員間において売上の格差が生じてきている。その他として採算が悪化し、収益状況が悪いと、銀行の対応も厳しくなり、借入額や資金繰りに影響が出ているようである。
運輸業	一般貨物自動車運送業	今月に入り、軽油の価格がさらに値上がりした。6月も値上がりが検討されているとのことであり、価格の安定化を望んでいる。
	一般貨物自動車運送業	相変わらず地域差や業者間において格差が生じているものの、前年と比べて変化はほとんど無い。その他として、軽油価格が5月に値上げされ、収益を圧迫している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
サービス業	旅館、ホテル	温泉地及び個々旅館のブランド力向上のための支援策を要望する。
サービス業	旅館、ホテル	石川県全体の誘客キャンペーン等を首都圏において実施して欲しい。